# 第1回APT WRC-23準備会合（APG23-1）結果報告

総務省　総合通信基盤局 電波部 電波政策課 国際周波数政策室

## 1. はじめに

2023年世界無線通信会議（WRC-23：World Radiocommunication Conference 2023）に向けて、2020年9月24日及び25日にオンライン会議ツールZoomを用いたVirtual meetingの形式で開催されたAPG23-1（APT Conference Preparatory Group for World Radio-communication Conference 2023：アジア・太平洋地域における第1回WRC-23準備会合）の結果概要を報告する。

WRC-23は、各周波数帯や衛星軌道の利用方法、無線局の運用に関する各種規定、技術基準等をはじめとする国際的な電波秩序を規律する無線通信規則（RR）の改正を行うため2023年に開催される予定である。WRC-23に向けて、APT（アジア・太平洋）をはじめ、CEPT（欧州）、CITEL（米州）、ATU（アフリカ）等の各地域機関がWRC-23準備会合（各地域会合）を開催し、各地域機関の見解や共同提案がWRC-23に入力される見込みである（図）。近年のWRCでは地域機関の共同提案が重視される傾向にあることから、我が国の意見をAPTにおける検討に可能な限り反映していくことが重要となっている。

本会合は、WRC-23に向けて開催された初会合であり、今会期におけるAPGの検討体制を中心に議論が行われた。具体的には、APG議長・副議長及び作業部会（WP）議長等の役職者の選出、WP構成の検討、APG作業計画の策定等を主な目的として開催された。例年のAPG会合への出席は300名弱程度であるが、オンライン会議の形式ということもあり、今会合では、APT加盟国等の各国主管庁、電気通信事業者、メーカー等から約600名程度(日本からは78名)が参加した。

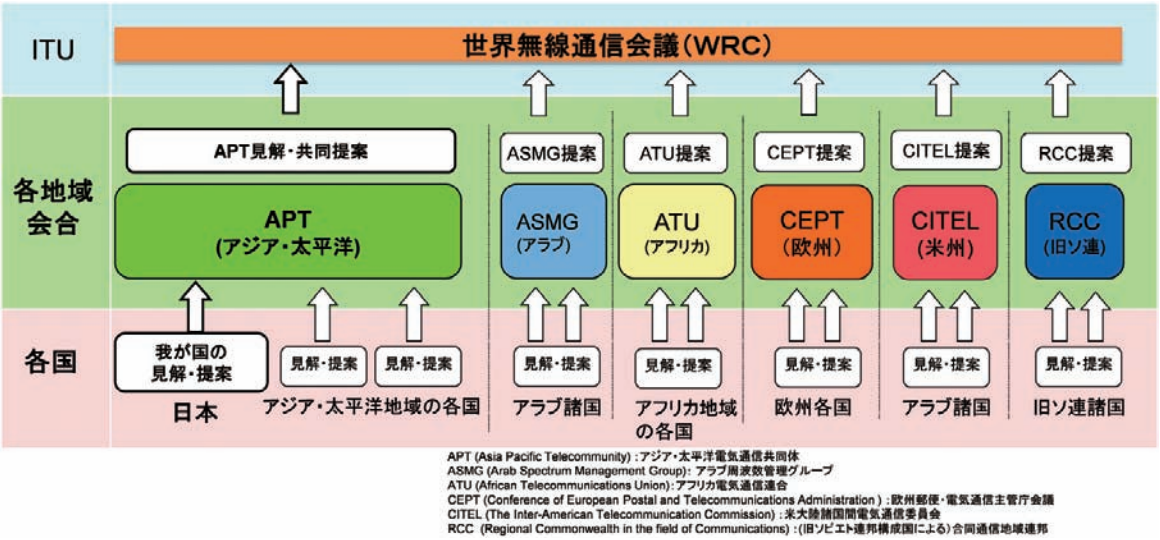
本稿では、本会合において議論されたAPGの検討体制として、APG役職者の選出結果及び各WPの構成について報告する。また、APG作業計画等、会合中に検討された主な事項について結果を報告する。

## 2. APGの検討体制

### (1) APG役職者の選出結果

APG議長については、前会期に議長を務めたWee氏（韓国）のみが推薦され、特段の異論がなかったため、今会期もWee氏が議長を務めることとなった。

APG副議長については、我が国から前会期にWP3（衛星業務）議長を務めた阿部宗男氏（三菱電機株式会社）を推薦した。また、他国から、前会期に副議長代行（Acting Vice Chairman）を務めた2名（中国及びオーストラリア）を含む3名の推薦があり、計4名の候補者から2名の副議長を選任することとなった（APGの組織構成等を規定する




■図. WRCと各地域会合との関係

Working Methodにおいて、APG には2名の副議長を置くこととされている。)。

各WP議長についても、各国から推薦された候補者に基づいて検討が行われた。まず、WP2（航空・海上業務）議長、WP3（科学業務）議長、WP5（一般的事項）議長及び特別顧問（Special Senior Advisor）については、各役職に推薦された候補者が1名であったことから、推薦された候補者がそれぞれの役職を務めることになった。他方、WP1（固定・移動・放送業務）議長については、我が国から前会期にWRC-19議題1.13のDG（Drafting Group）議長を務めた新博行氏（株式会社NTTドコモ）を推薦したところ、韓国からも候補者の推薦があり、計2名の候補者から検討することとなった。また、WP4（衛星業務）議長についても、中国及びインドから候補者の推薦があり、計2名の候補者から検討することとなった。

前述のとおり、APG副議長、WP1議長及びWP4議長に役職数を上回る候補者が推薦されたことから、APT事務局長を中心に、APT事務局及び各国代表者による調整が図られた。この調整の結果、我が国から推薦した阿部氏と前会期に副議長代行を務めたKeer女史（中国）の2名が今会期のAPG副議長を務めることとなった。また、WP1及びWP4の議長について、例外的に共同議長とすることになり、我が国から推薦した新氏がLim氏（韓国）とともにWP1共同議長を務めることとなった。

上記を総括したAPG23の検討体制は、**表1**のとおりである。

**■表1. APG-23の検討体制**

| 議長：Dr. Kyu-Jin Wee（韓国） | | |
|---|---|---|
| 副議長：阿部　宗男 氏（三菱電機）、Ms. Zhu Keer（中国） | | |
| | 所掌 | 議長（WP1及びWP4は共同議長） |
| WP1 | 固定・移動・放送業務 | 新　博行 氏（NTTドコモ）<br>Dr. Jae Woo Lim（韓国） |
| WP2 | 航空・海上業務 | Mr. Bui Ha Long（ベトナム） |
| WP3 | 科学業務 | Mr. Wahyudi Hasb（インドネシア） |
| WP4 | 衛星業務 | Ms. Fenhong Cheng（中国）<br>Mr. Mrunmaya Pattanaik（インド） |
| WP5 | 一般的事項 | Dr. Taghi Shafiee（イラン） |

※特別顧問（Special Senior Advisor）：Mr. Kavouss Arasteh（イラン）
編集委員長：Mr. Christopher Hose（オーストラリア）

### (2) WP構成

WP構成については、各地域会合のWP構成も参照しつつ、議論が行われた。議論の結果、APG-23では、WRC-23議題に加えて、中国から提案されたNo.21.5（RR）、Res.427（WRC-19）及びRes.655（WRC-15）についてもAPG-23の議題として検討することとなった。また、APG-23の各議題は、WRC-23に向けたITU-Rの検討状況を取りまとめるCPMレポートの章構成と整合させることを基本としつつ、各議題に関連する専門家が多数参加するWPで検討が行われるよう、各WPに割り振られた。各WPが担当する議題一覧は**表2**のとおりである。

**■表2. 各WPの担当議題一覧**

| 所属WP | 議題 | |
|---|---|---|
| WP1<br>固定・移動・放送 | 1.1 | 4800−4990MHzにおける国際空域及び公海における航空、海上業務無線局の保護の検討と脚注5.441Bのpfd要件の見直し |
| | 1.2 | 3300−3400MHz、3600−3800MHz、6425−7025MHz、7025−7125MHz及び10.0−10.5GHz帯における移動業務への一次分配を含むIMT特定の検討 |
| | 1.3 | 第一地域における3600−3800MHzの移動業務への一次分配の検討 |
| | 1.4 | 2.7GHz以下のIMT特定された周波数帯におけるIMT基地局としての高高度プラットフォームステーション（HIBS）利用の検討 |
| | 1.5 | 第一地域における470−960MHz帯の既存業務の周波数利用と周波数需要の見直しとこれに基づく規則条項の検討 |
| | 9.1c | 固定業務に一次分配された周波数帯での固定ワイヤレスブロードバンドのためのIMTシステムの利用の研究 |
| | No.21.5（RR） | IMT基地局の通知に関するRR No.21.5で指定された制限の検証 |
| WP2<br>航空・海上 | 1.6 | 準軌道飛行体の無線通信のための規制条項の検討 |
| | 1.7 | 117.975−137MHzにおける地球から宇宙及び宇宙から地球の双方向への航空移動衛星業務（AMS（R）S）への新規分配の検討 |
| | 1.8 | 無人航空システムの制御及び非ペイロード通信による固定衛星業務の利用のための決議155（WRC-15改）及びRR 5.484Bの見直しと適切な規則条項の検討 |
| | 1.9 | 航空移動業務に割り当てられたHF帯における民間航空の人命保護のためのデジタル技術の導入とアナログシステムとの共用のためのRR付録27の見直しと規制条項の検討 |
| | 1.10 | 非人命保護用途の航空移動アプリケーションのための航空移動業務への新規分配のための研究の実施 |
| | 1.11 | 海上における遭難及び安全に関する世界的な制度（GMDSS）近代化及びe-navigation実施のための規則条項の検討 |
| | Res.427（WRC-19） | 航空業務に関する無線通信規則の規定の更新 |

| | | |
|---|---|---|
| WP3<br>科学 | 1.12 | 45 MHz帯衛星搭載レーダーサウンダーのための地球探査衛星業務（能動）への新規二次分配のための検討の実施 |
| | 1.13 | 14.8−15.35GHz帯に二次分配されている宇宙探査業務の一次分配への格上げの検討 |
| | 1.14 | 現代のリモートセンシング観測の要求に則った231.5−252GHz帯における地球探査衛星業務（受動）に係る既存分配の見直しと新規分配の検討 |
| | 9.1a | RRにおける適切な認知と保護という観点での宇宙天気センサに関する技術、運用面の特徴、周波数要求、適切な無線業務の研究の見直し |
| | 9.1d | 36−37GHzにおけるNGSO宇宙局からのEESS保護 |
| | Res.655<br>（WRC-15） | 時系及び無線通信システムを介した報時信号の配信に関する定義 |
| WP4<br>衛星 | 1.15 | 固定衛星業務の静止軌道衛星局と通信する航空機及び船舶上の地球局による12.75−13.25GHz帯（地球から宇宙）の利用の調和 |
| | 1.16 | 非静止軌道における固定衛星業務の移動する地球局による17.7−18.6GHz、18.8−19.3GHz及び19.7−20.2GHz（↓）並びに27.5−29.1GHz及び29.5−30GHz（↑）の使用のための研究及び技術・運用・規則面の手段の検討 |
| | 1.17 | 特定帯域における衛星間リンクの規則に対する衛星間業務への分配追加による適切な規則条項の決定と実施 |
| | 1.18 | 狭帯域移動衛星システムの発展のための移動衛星業務の周波数需要及び新規分配の検討 |
| | 1.19 | 第二地域における17.3−17.7GHz帯の宇宙から地球方向の固定衛星業務への新規一次分配の検討 |
| | 7 | 衛星ネットワークに係る周波数割当のための事前公表手続、調整手続、通告手続及び登録手続の見直し |
| WP5<br>一般的事項 | 2 | 無線通信規則に参照による引用をされたITU-R勧告の参照の現行化 |
| | 4 | 決議・勧告見直し |
| | 8 | 脚注からの自国の国名削除 |
| | 9.1b | 同一の周波数で運用されている無線航行衛星業務（宇宙から地球）の保護を確実にするための追加的手段の必要性の決定のための1240−1300MHz帯のアマチュア業務及びアマチュア衛星業務の見直し |
| | 10 | 将来の世界無線通信会議の議題 |

なお、今後、議題ごとにDGが設けられる予定であるが、各DG議長の選出については第2回APT WRC-23準備会合（APG23-2）で行うこととされた。

## 3. APG作業計画

APT事務局から、今会合がVirtual meetingで2日間のみの開催であったことも踏まえ、今会期の暫定作業計画として、APG-23会合を計6回開催する予定であることが示された（前会期は計5回開催）。また、APG23-2の開催時期として2021年3〜4月が提示されたが、ITU-R SGの会合が通常3月頃に開催されることや次回の世界電気通信標準化総会（WTSA：World Telecommunication Standardization Assembly）が2021年2月にインドで開催される予定であること等を考慮するとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大の状況も踏まえて、APG23-2の開催日程等の詳細を決めることとされた。なお、今後のAPG会合に関するトピックスとしては、韓国から、APG23-5の開催を招致する意向が示されたことが挙げられる。

## 4. 日本からの入力文書の審議状況

### (1) WRC-23議題1.4

IMT基地局としての高高度プラットフォームステーション（HIBS）の基本コンセプトや想定される利用シナリオ等の基礎情報、本議題のスコープ及び本議題の責任グループであるITU-R WP5Dの活動状況に関する文書を入力した。本寄書に関して、今会合においては特段の議論はなされず、次回会合に持ち越されることとなり、議長から各主管庁へ、次回会合に向けて検討するよう指示があった。

### (2) WRC-23議題1.17に関する提案

11.7−12.7GHzをGSO FSSからNGSO FSSへの衛星間通信として割り当てる場合のGSO BSSの保護に関する文書を入力した。本寄書に対して、イランから、現時点では詳細な検討が困難であるため、関連WPへの審議に参加し、議論の動向や争点を把握しながら、今後、検討していくべきであるとの意見があった。本寄書は次回会合に持ち越されるとともに、議長から日本に対して、更なる見解を提出することが提案された。

## 5. おわりに

次回会合では、各WPのDG議長が決定されて、各議題に関する議論が本格的に開始される予定である。今後、WRC-23に向けたAPTの見解や共同提案に関する検討が進められていくことになるが、検討される議題には我が国にとって重要な議題が数多く含まれている。このため、引き続き、我が国が積極的に寄与文書を入力してAPGにおける議論を主導し、我が国の意見をAPTの検討結果に反映させていく。